



石川の土地改良

第630号

2016.1.15発行

石川県土地改良事業団体連合会

迎春



柴山瀉から見た白山（加賀市）

会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます

平成28年 元旦

石川県土地改良事業団体連合会

会 副	長 会	西 酒	村 井	徹 次	理 同	山 不	野 嶋	之 豊	義 和
専 務	同	梶 小	林 谷	梯 文	同	宮 本	元 屋	彌 愛	陸 夫
理	事	泉 山	辺 本	善 満	同	丸 津	山 田	壽 夫	子 達
	同	杉 矢	田 和	芳 栄	代 表	小 相	林 川	昶 貞	夫 重
	同	和	田	富 慎	監 同	外	職	員 一	同

CONTENTS

- 年頭挨拶 1
- 平成27年度第2回理事会 7
- 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会中央要請活動 7
- 本会・各種協議会合同要望活動 7
- 農業農村整備事業平成28年度予算概算決定（国費） 8
- 知事表彰（第37回石川の農林漁業まつり） 10
- 第38回全国土地改良大会 青森大会 10
- 2015ため池フォーラムinいしかわ 11
- 農業農村整備の集い 11
- 対談「人と自然の関わり」について 12
- 石川県農業農村整備事業推進協議会県外先進地研修 18
- 石川県土地改良事業団体連合会職員研修会（マナー研修会） 18
- 技術力向上事業研修会 18
- 県営ほ場整備事業（面的集積型）「東馬場地区」完工式 19
- 県営ほ場整備事業（面的集積型）「酒見地区」完工式 19
- 北陸農政局石川支局が開設 19
- 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015 20
- 21創造運動いしかわだより
 - 水土里の語り部〔水土里ネット長坂用水〕 20
 - 七ヶ用水水族館〔水土里ネット七ヶ用水〕 20
 - 河北潟施設見学会・体験学習会
 - 〔水土里ネットかほくがた・河北潟水土里ネットかんとく〕 21
 - 宮竹用水探検 〔水土里ネットみやたけ〕 21
- 第39回全国土地改良大会石川大会のお知らせ 21
- 連合会日誌（9月～12月） 22
- 人事異動 22
- 農業基盤整備資金の金利改定について 22



新年のご挨拶

水土里^{みどり}ネット いしかわ
(石川県土地改良事業団体連合会)

会長 西村 徹

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素は本会の運営に特段のご高配を賜りますとともに、日頃から農業農村整備事業の推進に多大なるご尽力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、北陸新幹線金沢開業により県内は大変な賑わいとなりましたが、引き続きこの開業効果が継続されますとともに、一日も早い敦賀開業、そして、早期に全線開通が期待されるところであります。

さて、我が国の農業農村を取り巻く環境は、依然として農業従事者の高齢化や担い手不足など非常に厳しい状況にあります。この様な中、経営感覚に優れた担い手の育成、規模拡大によるコスト縮減、産地の育成など農業所得の増大に向けた取り組みが必要とされております。

昨年のTPP交渉も関係国で合意されましたが、国内の農林水産業に対する個別救済対策と振興策等について、政府は緊急対策を速やかに着手するため、平成27年度補正予算を計上し閣議決定を行ったところであります。農業農村整備につきましても、農業を下支えする重要な事業であることから、990億円の大型補正予算が計上されました。

また、平成28年度の当初予算につきましても、対前年度比106.5%の3,820億円が計上され、来年度の実質的な執行予算額は、今年度よりも1,222億円の大幅な増額とな

ります。

しかし、地域の皆様からの整備要望に応えるためには、年度当初予算を平成21年度時の約5,700億円に早く回復させるとともに、農地中間管理事業との連携を進め「攻めの農林水産業への転換」を加速させる必要があると考えております。

本会といたしましては、今後とも会員の皆様の付託に応えるべく、農地の大区画化、汎用化、国土強靱化に資する農業水利施設の耐震化、長寿命化、防災減災対策等の業務に加え、多面的機能支払制度への事務支援及び再生可能エネルギー導入に係る技術支援のほか、水土里情報システムの利活用推進など、国並びに石川県、会員の皆様のご支援を賜りながら、役職員一丸となって努力して参る所存であります。

そして、今秋10月25日にはいしかわ総合スポーツセンターにて、「第39回全国土地改良大会石川大会」が開催されます。

この大会が有意義な大会になるよう本会役職員一同、そして土地改良関係団体と更なる連携を図る考えでありますので、国並びに石川県、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念致しますとともに、本会に対してのより一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



新年を迎えて

石川県知事

谷本正憲

平成28年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

石川県土地改良事業団体連合会並びに会員の皆様方におかれましては、平素より県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

また、日頃から、皆様方には農業用施設の整備や維持管理に対する支援を通して、本県の農業農村を支えていただいていることに心から感謝申し上げます。

昨年3月14日、県民の長年の悲願でありました北陸新幹線金沢開業が実現いたしました。今も、国内外から多くの観光客が訪れ、開業効果が持続し県内全域に波及しています。

開業2年目となる本年は、開業効果をさらに持続・発展させていくための大変大事な年です。引き続き、首都圏をはじめとする全国への情報発信や石川の魅力の磨き上げなどに取り組んでまいります。

新幹線開業により、全国における本県への注目度が高まる中、特に石川の魅力の一つである「食」は大きな注目を浴びております。今後も、全国から多くの方々にお越しいただくためには、多様化する消費者ニーズに対応し、「作ったものを売る」産業から「売れるものを作る」産業への転換を加速化し、付加価値の高い農産物の生産・販売拡大に取り組んでいく必要があります。

しかしながら、石川の「食」を支える農業農村を取り巻く環境は、担い手の高齢化、後継者不足に加え、耕作放棄地の増加など

厳しい状況であります。

こうした中、県では、「いしかわ農業総合支援機構」において、農地の確保・あつ旋から、人材の確保、経営の効率化の支援までをワンストップで行う体制を整えております。さらに、羽咋市滝地区では、「ほ場整備」と併せた大規模な耕作放棄地解消の取り組みを全国に先駆けて実施しているところであり、石川型農地再生のモデルとして、本県農業の更なる活性化に繋げてまいりたいと考えております。

また、県では、農業を取り巻く情勢の変化等を踏まえ、今後10年の施策の方向性を定める「いしかわの食と農業・農村ビジョン」の策定作業を進めており、農業の成長産業化を促進するための産業政策と、農村地域の振興に向けた地域政策を車の両輪として、農業・農村の振興を図ることとしております。

こうした新しいビジョンを着実に実行し、本県農業を発展させていくためには、貴連合会のご協力が必要不可欠であると考えております。

貴連合会におかれましては、今後とも会員の皆様と一丸になって施設の良好な管理や多面的機能の発揮にご尽力いただきますことを心から期待申し上げます。

結びにあたり、この新しい年が佳き年となりますことを心からお祈り申し上げますとともに、皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



年 頭 挨拶

北陸農政局長
小林 厚 司

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、平成27年10月5日の環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の大筋合意を受け、世界のGDPの約4割（3,100兆円）、人口8億人という巨大市場が創出されます。このことは、これまで様々なリスクを懸念して海外展開に踏み切れなかった農産品等も、オープンな世界へ果敢に踏み出す大きなチャンスをもたらすものであり、いま、我が国の農政は「農政新時代」とも言うべき新たなステージを迎えています。生産者の持つ可能性と潜在力をいかに発揮できる環境を整えることにより、我が国の豊かな食や中山間地域を含む美しく活力ある地域を次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

夢と希望の持てる「農政新時代」を創造し、努力が報われる農林水産業を実現するために、未来の農林水産業・食料政策のイメージを明確にするとともに、生産者の努力では対応できない分野の環境を整えることとし、これにより、農林水産業の持つ様々な価値や魅力、日本の食の潜在力や安定供給の重要性などに対する理解や信頼を高め、「農政新時代」を日本の輝ける時代にしていきたいものです。

このため、具体的な対策として「攻めの農林水産業への転換（生産現場の体質強化）」及び「経営安定・安定供給のための備え（重要5品目関連）」を進めていくこととしています。

特に土地改良に関連しては、「攻めの農林水産業への転換」として「農地中間管理事業の重点実施区域等における農地の更なる大区画化・汎用化」や「水田の畑地化」

等を進めるとともに、土地改良制度については、食料・農業・農村基本計画を踏まえ、農業・農村の構造変化を見極めつつ、その在り方について、農地や農業水利施設の管理、土地改良区の組織運営、土地改良事業の実施に際しての関係者のニーズ等について現状の把握と検証・検討を行うこととしています。

このうち「農地中間管理事業の重点実施区域等における農地の更なる大区画化・汎用化」の推進を図るためには、貴連合会が尽力されてきた土地改良事業に関する技術的な指導や換地業務が必要不可欠なことから、貴連合会や土地改良区等の皆様の役割と期待は益々大きくなっております。

貴連合会におかれましては、引き続き、そのことに向けた御尽力をお願いするとともに、土地改良区が「農政新時代」において本来の役割を果たしていけるよう、農業水利施設の計画的な補修・補強等に向けた技術的な指導や維持管理体制の再編整備など、土地改良区の組織運営基盤の強化への支援充実について、御配慮をお願いしたいと思います。

北陸農政局としましても、農業者の不安な気持ちに寄り添いながら関連施策を実施していくこととしており、平成27年10月1日に地方組織（地域センター）を見直し配置した、現場と農政を結ぶ役割を担う各支局が、「地域農政のコンサルタント」として機動的に対応していくこととしています。また、北陸農業・農村の魅力探しに積極的に取り組み、その魅力を余すことなく発揮できるよう、お手伝いをしたいと思っております。

結びに、本年が皆様にとりまして良い年となり、また、石川県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



年頭のご挨拶

石川県農林水産部
部長 棗 左登志

平成28年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

石川県土地改良事業団体連合会並びに会員の皆様におかれましては、平素より本県農政の推進、とりわけ農業農村整備事業の推進にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年の農業農村を取り巻く環境は、農業従事者の減少や高齢化、耕作放棄地の増加など大変厳しい状況にあります。

さらには、近年の気象状況の変化に伴い、局地的集中豪雨等の自然災害が全国各地で発生し甚大な被害をもたらしており、農地や農業用施設が併せ持つ、洪水防止機能などの多面的機能の更なる発揮が求められています。

このため県においては、平成26年に農業参入総合支援プログラムを創設し、「いしかわ農業総合支援機構」と一体となって、農地や人材の確保から経営支援までの一貫した支援体制を構築するとともに、県産農林水産物の販売促進やブランド化の推進など、次世代に向けた農業振興施策を展開しているところであります。

また、基盤整備が遅れている地域を中心として大規模で効率的な営農を可能とするほ場整備や、農業水利施設の長寿命化を図る更新・保全管理などの事業や農村の安全安心を確保するための防災対策の推進に取り組んでおります。

昨年11月には、七尾市を会場に「ため池

フォーラム」を開催し、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を含めた本県の魅力を全国に発信することができ、貴連合会のご協力に感謝を申し上げる次第であります。

また、本年10月には貴連合会と全国土地改良事業団体連合会主催の下、「全国土地改良大会」が本県にて開催されると聞いており、「ため池フォーラム」と同様に貴連合会と連携してまいりたいと考えております。

貴連合会におかれましては、市町や土地改良区が行う土地改良事業の技術的な支援や土地改良施設の維持管理に対する指導などを通じて、石川の農業の発展に向けた取り組みを支えていただき、今後とも、本県農業の振興に一翼を担っていただきますよう心からご期待申し上げます。

最後に皆様の今後益々のご発展とご活躍を心よりご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。





新年に当たって

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊 博

平成28年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいている皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年、当会の会長に就任しましてから、関係者の皆様のご支援を受けながら、これまで事業の推進に尽力して参りました。とりわけ、会長就任時には民主党政権時代に七割近く削減された状況であった予算を、まずは復活させようと、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し、悲鳴が上がっておりましたし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりました。このため「闘う土地改良」を旗印に、真剣な取り組みを訴えて参りました。おかげさまで、昨年末には平成27年度補正予算と同28年度予算とで総額4,810億円を政府予算編成案において確保することができました。

私は、皆様の要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく、本会として具体的な行動を起こすことが重要である旨申し上げ、次期参議院選挙には候補者を打ち立てて、明確な意思を表明することが重要であると申しました。おかげさまで、農林水産省から進藤金日子君が現職課長を辞して立候補することとなりました。彼は秋田県の農村出身で、土地改良に熱い思いを持っており、是非、土地改良のために頑張りたいと積極的に活動してくれています。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料

生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

さらには、昨年TPP交渉が大筋合意されたことを受けて、「総合的なTPP関連政策大綱」が決定されましたが、私は農業農村の振興に、支障を来さないように努力をしていかなければならないと思っております。

我々水土里ネット関係者としましては、このような現状をしっかりと受け止め、積極的に役割を果たしていくことが重要と考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様へアピールし、共感を得ていく努力も必要と考えます。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開するべく全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

土地改良は、農業農村の整備や振興を通じて国土を維持し、発展させることを目的としております。そのためには、自分達の生活は必ずや自らが守り発展させていくという気構えが不可欠です。それを、我々の先人達が時々の時代背景の中で繰り返し最大限努めてきたことだと思うのです。現代に生きる我々が手をこまねていることは決して許されることではありません。私は全国の土地改良関係者の皆様の協力をいただきながら、ひき続き予算の獲得や参議院選挙の勝利に向け真剣に闘う決意を新たにいたしました。

本日、輝かしい年の初めに当たり、本年が全国の皆様にとってよき年でありますように、ご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。



“闘う土地改良”の先頭に立って

全国水土里ネット会長会議

顧問 進 藤 かねひこ

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議（全国水土里ネット会長会議）顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km（地球10周分）の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」であります。その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

①土地改良の予算確保に全力、②日本型直接支払制度の充実に全力、③災害に強い農山漁村づくりに全力、④自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力、⑤農業と農山漁村への国民の理解に全力、この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

そして、貴県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、自らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

平成27年度 第2回理事会開催

本会は12月24日、平成27年度第2回理事会を開催し、一般会計並びに特別会計収支補正予算(案)ほかについて審議した。

当日は、西村会長をはじめ理事10名と監事3名が出席、来賓には石川県の棗農林水産部長を迎えた。はじめに、西村会長から本会運営の協力に対する謝辞を交えた挨拶があり、続いて議案審議に入った。議事では一般会計並びに特別会計収支補正予算(案)などの2議案が上程され、事務局が議案内容の説明を行い、審議のあと可決承認された。

なお、同日、理事会に先立ち監事会が開催され、理事会に上程する2議案が承認された。



本会と各団体で要望活動を実施

○北陸四県土地改良事業団体連合会協議会が要請活動

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は11月30日、平成28年度農業農村整備事業の予算措置につき、下記の項目で農林水産省へ要請活動を行った。なお、11月20日には北陸農政局で施策提案を実施した。

《要請項目》

- 1 農業農村整備事業の着実な推進について
- 2 農業農村の再生に向けた支援
- 3 農家の負担軽減に向けた支援

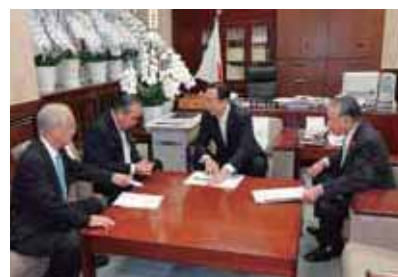


末松広行農村振興局長への要請活動

○本会・各種協議会合同要望活動

本会(会長 西村徹)と石川県農業農村整備事業推進協議会(会長 杉本栄蔵中能登町長)及び、いしかわ多面的機能発揮推進組織(会長小林善隆)は合同で、11月13日に北陸農政局へ、11月18日～19日には農林水産省、財務省、関係国会議員、自由民主党三役へ「農業農村整備事業に関する要望書」を提出し、各種事業の推進と来年度予算の確保について要望活動を行った。

また、12月22日には石川県知事、石川県議会正副議長、石川県農林水産部へも要望書を提出し、意見交換を行った。



岡田直樹財務副大臣へ要望書を提出

《要望項目》

- 1 農業農村整備事業の着実な推進について
- 2 多面的機能支払制度の活用について



謹賀新年

平成28年 元旦



石川県農業農村整備事業推進協議会

会長 杉本栄蔵

(中能登町長)

いしかわ多面的機能発揮推進組織

会長 小林善隆

(石川県土地改良事業団体連合会専務理事)

いしかわ小水力等発電推進協議会

会長 小林善隆

(石川県土地改良事業団体連合会専務理事)

農業農村整備事業 平成28年度予算 概算決定（国費）

政府は、12月24日の閣議で平成28年度予算案を決定した。

概算決定された平成28年度農業農村整備事業予算については、「農業競争力強化のための農地の大区画化・汎用化」、「新たな農業水利システムの構築」、「国土強靱化のための農業水利施設の長寿命化・耐震化対策」、「ため池の管理体制の強化」等の推進を対策のポイントとして掲げている。

概算決定額 2,962億円（対前年度比 107.6%）

農山漁村地域整備交付金 735億円（対前年度比 100.0%）
（農業農村整備分）

地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援する。

農地耕作条件改善事業〔非公共〕 123億円（対前年度比 122.7%）
（農業農村整備分）

農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化を推進するため、区画拡大、暗渠排水等に加え、借り手のニーズに対応した基盤整備を支援する。

○農業農村整備事業の概要

（単位：億円）

事 項	平成27年度当初予算額	平成28年度概算決定額	対前年度比(%)
農業農村整備事業	2,753	2,962	107.6
○国営かんがい排水	1,053	1,179	111.9
○国営農地再編整備	229	176	76.9
○国営総合農地防災	228	262	114.9
○直轄地すべり	19	15	81.6
○水資源開発	69	70	101.2
○農業競争力強化基盤整備			
うち農業競争力強化基盤整備	341	365	107.0
農業基盤整備促進	225	61	27.0
農業水利施設保全合理化	45	69	153.9
水利施設整備（農地集積促進型）	6	6	100.0
○農村地域防災減災	280	508	181.2
○土地改良施設管理	155	156	100.4
○その他	102	96	93.7

※計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

◎農業農村整備事業（公共）

【296, 226 (275, 265) 百万円】

<背景/課題>

- ・農業競争力強化を図るためには、担い手への農地の集積・集約化に向け、農地中間管理機構とも連携した農地の大区画化・汎用化や、水管理の省力化等を実現する新たな農業水利システムの構築等を推進する必要がある。
- ・国土強靱化を図るためには、地震・豪雨等の自然災害の激甚化や基幹的な農業水利施設の老朽化への対策を講ずる必要がある。

『政策目標』

- 担い手が利用する面積が今後10年間（平成35年度まで）で全農地面積の8割となるよう農地集積を推進
- 国営造成施設における重要構造物の耐震設計・照査の実施率（約2割（平成23年度）→約6割（平成28年度））
- 基幹水利施設の機能診断済みの割合（約4割（平成22年度）→約7割（平成28年度））
- 決壊すると多大な影響を与えるため池のうち、ハザードマップ作成等ソフト対策を実施した割合（4割（平成26年度）→10割（平成32年度））

<主な内容>

1. 農業競争力強化対策

91,251 (108,932) 百万円

大区画化・汎用化等の基盤整備を実施し、農地中間管理機構とも連携した担い手への農地集積・集約化や農業の高付加価値化を推進。また、草地基盤整備を実施し、離農農家の草地の円滑な継承を図る。

パイプライン化やICTの導入等により、水管理の省力化と担い手の多様な水利用への対応を実現する新たな農業水利システムを構築し、農地集積の加速化を推進。

2. 国土強靱化対策

204,975 (166,333) 百万円

基幹的な農業水利施設等の耐震診断やハザードマップの作成、耐震化工事、ため池の監視・管理体制の強化、農村地域の洪水被害防止対策等を実施。

老朽化した農業水利施設の点検・診断の結果をデータベース化し、補修・更新等を適時・的確に実施。

〔国費率、補助率：2/3、1/2等〕
事業実施主体：国、都道府県等〕

○農地耕作条件改善事業

【12,274(10,000)百万円】

<背景/課題>

- ・我が国農業の競争力を強化するためには、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備を行い、農地中間管理機構による担い手への農地集積を推進するとともに、高収益作物への転換を推進することが重要。
- ・このため、多様なニーズに沿ったきめ細かな耕地条件の改善を機動的に進めるとともに、農地集積を図りつつ高収益作物への転換を図る場合には、計画策定から営農定着に必要な取組をハードとソフトを組み合わせて一括支援することが必要。

『政策目標』

- 担い手が利用する面積が今後10年間（平成35年度まで）で全農地面積の8割となるよう農地集積を推進

<主な内容>

1. 地域内農地集積型

（地域内の農地集積を計画的に実施する場合）

- 定額助成：区画拡大、暗渠排水、水路等の更新整備、先進的省略化技術導入支援等の条件改善促進支援 等

※中心経営体に集約化（面的集積）する農地については、定額助成の単価を2割加算

- 定率助成：土層改良、農作業道、農地造成、管理省力化支援、品質向上支援、営農環境整備支援、地形図作成等の条件改善促進支援 等

2. 高収益作物転換型

（農地集積を図りつつ、高収益作物への転換を図る場合）

基盤整備に加え、販売先の確保や営農定着等に必要な支援を計画策定から一括支援。

「1. 地域内農地集積型」の事業内容に加え、以下の取組が可能。

- 定額助成：プラン作成に係る調査・調整、農産物の需給動向の把握、技術習得方法の検討と実践、試験販売等の経営展開の支援、現場での研修会開催 等
- 定率助成：実証展示ほ場の設置・運営、導入1年目の種子・肥料等への支援 等

※事業の特徴

- (1)事業の実施区域は、農振農用地のうち農地中間管理事業の重点実施区域、本事業の実施により重点実施区域に指定されることが確実と見込まれる区域
- (2)事業実施年度に入ってから採択申請が可能（複数回受付）、農地中間管理機構から国への直接申請も可能
- (3)必要なハードとソフトを組み合わせ、最大5年（ハードは最大3年）、総事業費は10億円未満を支援
- (4)農地中間管理機構との連携概要を策定し、事業を実施

〔事業実施主体：農地中間管理機構、都道府県、市町村、土地改良区、農業法人等〕
補助率：定額、1/2等〕

知事表彰（第37回石川の農林漁業まつり）

10月3・4日、金沢市の産業展示館4号館で第37回石川の農林漁業まつりが「かがやきはばたけ 石川の農林漁業」をテーマに開催され、多種多様なイベントや地元の新鮮な農林水産物等の販売などで賑わった。

開会式に引き続き行われた農林水産業功労者表彰では、本会の推薦により、元能美市土地改良区副理事長の北角耕一氏が石川県知事表彰を受けた。



北角耕一氏（上段の右から2番目）

第38回全国土地改良大会 青森大会 開催

10月15日、全国土地改良事業団体連合会と青森県土地改良事業団体連合会は、「あづましの風流れる青森大会 ～土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く～」をテーマに、第38回全国土地改良大会青森大会を開催した。会場となった新青森県総合運動公園（マエダアリーナ）で、全国から約3,500名が参集した。

式典では、食料自給率の向上と食料安定供給の確保、農業・農村の多面的機能の発揮などの

重要性がアピールされた。

来年度は、石川県での開催となるため、本会の西村会長が次期開催県として挨拶した後、「大会旗」を引き継いだ。

土地改良事業功績者表彰では、松任土地改良区の相川貞重理事長（本会監事）が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受けられた。



相川 貞重 氏



次期開催県挨拶をする西村会長

2015ため池フォーラムinいしかわ開催 里山を支える ため池の保全 ～地域の宝を永遠に～

11月12日、「2015ため池フォーラムinいしかわ」が七尾市和倉温泉観光会館において開催され、県内外から関係者約600名が参加した。

主催は2015ため池フォーラムinいしかわ実行委員会（石川県、七尾市、石川県土連）で、農林水産省、全国土地改良事業団体連合会などが後援した。

本県には、約2,300箇所のため池があり、その約8割が能登地域に集中している。フォーラムでは、古くから貴重な水源とされてきたため池の現状や管理・利活用の取組が紹介され、改めてその役割や重要性について認識を深めた。なお、翌13日には、奥能登と中能登・金沢の2コースで現地見学会が行われた。



開会宣言をする竹中博康県副知事

農業農村整備の集い

11月27日、全国水土里ネットの主催で、シェーンバッハ砂防（東京都千代田区平河町）において、本年度2回目の農業農村整備の集いが開催され、全国から関係者約800名が参集した。

まず、二階俊博全土連会長が開会挨拶を、森山裕農林水産大臣、稲田朋美自民党政調会長が祝辞を述べた。基調報告では、浅野耕太京都大

学大学院教授が「土地改良の価値」について、緊急報告では、末松広行農村振興局長が「総合的なTPP関連対策大綱」について説明を行った。

そして、進藤かねひこ都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問からは、土地改良現場における状況報告が行われ、最後に要請文を満場一致で採択し、ガンバロウ三唱で閉会した。



開会挨拶をする二階俊博全土連会長



対談

「人と自然の関わり」について

遺跡から歴史をひも解く「考古学」の専門家 小林園子氏（日本動物考古学会会員）と現代の生き物について調査研究する「生物資源環境学」の専門家 草光紀子氏（地域環境資源センター上席研究員）に、それぞれの視点から「人と自然の関わりについて」お話を伺いました。

幼少時代の“経験”がきっかけ

横川 まず初めに、お二人の専門は考古学と生物資源環境学ですが、そこに関わってこられたのには、何か原点があるのでしょうか。

小林 生まれ育った千葉県は、貝塚がたくさんあるところで、学校の遠足などでよく

訪れました。高校生の頃、考古学を研究されている社会科の先生に初めて貝塚の発掘に参加させてもらったことがきっかけで考古学の面白さに目覚めました。その後、大学で専門知識を学び、博物館に勤め、現在は約8年のブランクがありますが、学会員として携わっています。

草光 私は生まれが東京、育ちは関西と幼少期の大半は都会で過ごしたのですが、小学生の2年間だけは高知県の田舎で暮らしました。そこでは父に連れられて姉と一緒に川で魚をとったり、家の周りでトンボやヘビをつかまえたり、草花摘みをしたりと、自然の中で遊びました。大学では社会思想史を勉強しましたが、その後、縁あって石川県で暮らすことになり、



小林 園子 氏

千葉県出身。幼い頃から考古学に興味を持ち、國學院大學と大学院で考古学を専攻し、修士課程を修了。その後、国立歴史民俗博物館に勤務し、水産庁、環境省を経て現在、山田修路参議院議員の秘書を務める。日本動物考古学会会員。主な著書は「事典人と動物の考古学」（共著、出版：吉川弘文館）。



草光 紀子 氏

東京都出身。石川県に30年間在住、その間農林水産省登録の環境相談員などの立場から、農村地域での生物調査や農業農村整備事業での環境配慮計画などに携わる。また石川県立大学大学院生物資源環境学研究科において、農村地域における生物多様性保全に関する研究に携わり、平成27年に博士号を取得。現在は、東京の一般社団法人地域環境資源センターに在籍。



コーディネーター 横川 美陽

石川県土地改良事業団体連合会 総務課

再び豊かな自然の中に触れた時、幼い頃の生き物にふれた時の感動がよみがえり、この自然を守りたいという思いが強くなりました。私も小林さんと同様に、幼い頃の体験が今の研究や仕事に携わる原点になっているのだと思います。

「動物考古学」の原点は「人間と動物の関わり」

横川 小林さんの専門は考古学ですが、どのような研究をされていたのですか。

小林 考古学といっても幅広く、みなさんがイメージするのは、土器や石器だと思えますが、私が関わったのは「動物考古学」という遺跡から出土する動物の骨の研究でした。これは、人がどのように動物と

関わってきたかを類推する学問で、国立歴史民俗博物館で全国から送られてきた動物の骨を分析していました。具体的にいきますと、出土した骨は完全な形をしていませんが、その破片を現在の骨の標本と照合し、それが何の種類動物のどの骨で、どういった使われ方をしているかなどを分析していました。例えばイヌだと、一体分丸ごと出てくれば、埋葬されたものですし、バラバラに出てきて傷がついていると、人間が解体して食べたものだと分かります。

横川 そこから、時代まで分かるものですか。

小林 一緒に出てくる土器が基準になります。土器は時代がわかりますので、それと骨が同じ層から出てくれば、おおよその時代が推定できます。

草光 どういう生き物が多く食べられていたのでしょうか。

小林 目視できるような大きいものだけだとイノシシやシカが多くなりますが、もちろん魚なども食べていました。細かい魚の骨などを調べたい場合は、肉眼ではなかなか見えないものなので、土をふるって探します。ですから、膨大な作業になります。

草光 私も以前、ほ場整備の環境配慮やアセスメントの仕事をしていた時、遺跡の土中にある植物の痕跡を分析する仕事に携わったことがあります。花粉や種子、プラントオパールというイネ科植物の珪酸体などを顕微鏡で見つけるのですが、その分析結果があがってくるたびに、考古学とは地道で大変な仕事なのだと思いました。

横川 石川県では化石が出土しますが、恐竜などの骨も研究されていたのですか？

小林 よく誤解されるのですが、考古学は基本的に人類が生まれてからのお話で、恐竜の時代はもっとその前、古生物学の分野になります。どちらかといえば、生物の進化の歴史といえます。日本では、主に縄文時代、今から約 16000 年前から骨が出土するのでそれ以降の研究になります。古生物学が生物の進化等を研究するのに対して、動物考古学は、人間と動物との関係調べる学問になります。

草光 石川県の能登町には真脇遺跡があり、イルカの骨が多く出土したことが知られていますが、海の生物の骨が出土するのは珍しいのでしょうか。

小林 海の生物といっても、いろいろありま

す。真脇遺跡ではイルカが多く出土していますが、北海道の遺跡を発掘した時は、トド、アシカ、オットセイ、アザラシなどの海生哺乳類がたくさん出土しました。どのような生物を利用していたかは、場所や時代によって違います。

草光 地域性が関係しているんですね。

横川 考古学の遺跡で昔の道具や骨が出土した時、何を感じられますか。

小林 そもそも何千年も前の道具や骨や植物が出土することに感動します。日本の土壌は酸性なので、通常、貝や骨や木材などは腐って残りません。ところが、ある条件がそろると一例えば、貝塚のように貝がたくさんあることで土壌がアルカリ性になり貝や骨が残ったり、長年水に浸かりパッキングされて空気に触れなかったことで当時の木材や植物が残ったりします。土器や木製品の彩色や、虫の羽なども色が付いた状態で出てくる時があります。でもその色は現代の空気に触れたとたんにもみるみる色あせていきます。そういったものに触れたとき、感動しますね。

横川 これまでの調査研究で特に印象的な記憶はありますか。

小林 北海道の縄文時代の遺跡で、新生児の人骨と一緒に大人用の貝のアクセサリーが埋葬されていました。赤ちゃんが亡くなってお母さんが自分のものを入れたのでしょうか。いつの時代も子供を思う気持ちは変わらないのだと思いました。

他には、岡山県の弥生時代の遺跡からイノシシの下顎骨 12 個に穴を開けて並べた当時の儀礼の様子がそのまま出土したことです。人の営みがよく分かる遺跡

は印象的です。

横川 過去の遺跡を調査研究され、現未来が想像できる一面を大変羨ましく思います。

小林 現未来までは分かりかねるところもありますが、自然と立ち向かった過去の人々の暮らしぶりを研究する考古学の成果によって、未来への指針を得られることができます。日本では弥生時代、今から約 3000 年前から稲作が入りました。最初は、天然の地形を利用して作りましたが、その後、河川近くの低地に大規模な灌漑施設を作るようになります。そしてそれらの遺跡を発掘していると、厚い砂の層が一面に広がっていることがあります。洪水の痕跡です。しかし、その後も何度も同じ場所に住み、水田を作った跡があります。教科書にも出てくる静岡県の登呂遺跡は、何度洪水があっても、また同じ所に水田を作っていたようです。

また、東日本大震災では 1000 年に一度といわれる大地震で大変な津波の被害がありました。全国各地の考古学の遺跡でもそのような津波の痕跡が発見されています。それを参考にして現代のハザードマップが見直されたりしています。このような形でも発掘の成果が活用されるようになりました。

生き物・人・環境との関わりについて

横川 草光さんは現世の生物、環境に関する専門家ですが、ここに携わってきた思いをお聞かせ下さい。

草光 私は現在、主に人々が暮らす身近な自

然をいかに保全するかをテーマに研究し、また仕事としています。身近な自然、特に農地周辺の自然環境を保全しようとするときに難しいのは、人々が生きるための生産活動の場として守りつつ、そこに生きる生き物を守ることも両立させることです。一見、それは対立することのように捉えられがちですが、私はそうではないと思っています。生き物調査をしている時、地域の大人たちの眼は輝き、とても嬉しそうに生き物のことを語ってくれます。その人々のまなざしの中に両立できるヒントがあると思っています。

横川 石川をはじめ、全国で生き物調査や研究をなされていますが、これまでで一番感動的な出来事を教えてください。

草光 10 年ほど前に、あるため池の整備で県や土地改良区、地域住民の方々と水生植物を復元させようとしたことがありました。試行錯誤し、ほとんど諦めていた頃に、30~40 年前に生育していた今では希少な植物が発芽しているのを見つけた時、もうそれは感動しました。発芽したという事実もそうですが、その植物が地域の人々が自然を守っていく礎になっていくかもしれないと思った時、涙があふれてきました。

横川 最近取組まれた調査研究においてはいかがでしょうか。何か新たな発見等がありましたか。

草光 今年、西日本のある地域で、里草地での植物調査を行ったのですが、草刈りが適度にされているため池の堤体ではキキョウ、オミナエシ、リンドウなどが咲き乱れ、畦畔でもイヌセンブリなどの希

少植物が可憐な花を咲かせていました。この地域では、人々が草刈りという管理を継続してきたことで希少植物が厳然と保全され、また草刈りの頻度によって守られてきた希少植物が異なっていることを目の当たりにし、農業の様々な営みの中で、生物多様性が維持されていることを実感することができました。

横川 調査、研究を行う上で、大切にしていることはありますか。

草光 地域の人たちの、身近にいる生き物に対するかかわり方や思いを知ることが大切にしています。ですから、生き物調査では、何がいたかということよりも、人々がどんな生き物とどのように遊んだのか、食べたのかなどを話してもらい、そのような豊かな自然を守ることは自分達、子供達のためという思いを持つこと、その実現のために自分が何ができるかを考えることをしていきたいと思っています。

土地改良事業と環境保全の調和

横川 土地改良事業はややもしますと自然破壊を感じる一面もありますが、自然環境との調和を大切にしながら事業を推進しています。この点についてはいかがでしょうか。

草光 確かに、土地そのものを大きく改変する時は、生物の生息環境を壊してしまう面があります。しかし、そこは人々が生きていくための生産活動の場ですから、時代の変化に対応した基盤整備等はやむを得ないかと思います。一方、土地改良法が改正されてからは、環境配慮が義務付

けられて事業が行われていますが、大切なことは、単なる義務としてではなく、生き物と地域の人達との関わりをどう守るか、どのような地域を守るのかなどを、地域の課題として広く考えていくことだと思います。

横川 自然環境面からでは、全国で約39万haの耕作放棄地が存在し、一刻も早い解消が望まれています。しかし、「生き物」の住み家という観点から見た場合、耕作放棄地はどのような位置づけなのでしょう。

草光 耕作が放棄されると、耕作中には生息できなかった生物が住めるようになり、3～5年くらいまでは生物相が豊かになる傾向があります。しかし、そのまま放っておくとヨシなどが密生し、樹木も生えて乾燥化し、やがては暗い樹林環境へと遷移していき、生物多様性も低下すると言われています。そのような意味でも耕作放棄地は減らしていかなければならないと思います。

小林 ある程度手が加わった方が、生物も住みやすいのでしょうか。

草光 そうですね。自然には大きく分けて原生自然と二次的自然があります。私たちの身近にある自然は二次的自然で、最近では里地・里山などと呼ばれますが、人が自然に適度な手を加えることでその環境を生物が利用し続けてきた場所です。ですから、適度に手を加え続けることで、自然環境が豊かに保たれると言えます。

人の“思い”を知る、そして、守る

横川 私たち農業農村整備事業を行う者とし

て、地元の方の思いはどうなのか気になるのですが。

草光 生き物調査などで農家の方々と話をすると、今の米づくりは利益がほとんどなく大変だという声をよく耳にします。しかし、一昨年行ったアンケート調査では、それでもお米を作り続ける理由は、「先祖が守ってきた土地を守り続けたい」からだという答えが非常に多くありました。このような土地を守りたいというその思いに応えるために、基盤整備を行うことは必要だと思います。そして、その中で行われる環境配慮で必要なことは、生き物を守るための整備方法のハード的な工夫だけではなく、地域の人々の土地への思い、生き物と人とのつながりの歴史「心の中の生物多様性」を考えるとというソフト面も大切にすることだと思います。

小林 考古学でも、遺物や住居跡や水田跡が出てくるのですが、私たちもそういった「思い」に一步でも近づきたくて研究しています。実は「人の思い」を発掘しているのかもしれない。

横川 これまでのお話を伺った上で、土地改良区の皆様が農地を改良し醸成する一方、水利施設を保全管理して農業生産を支え、私達の生命を維持する食料の安定供給のため努力されていますが、この点についてはいかがでしょうか。

小林 人口も過去に比べると現在は爆発的に増えています。その皆がお腹をすかせない為には、食料安定の努力は必須になります。

草光 土地改良区は地域性の強い組織で、営農はもちろん、地域全体の心の支えの中

心となっている存在だと思います。これからどんな農業をしていくのか、どのように地域を守るのかを地域の人と共に考え、その中で、どの自然を守っていくべきなのかについても、地域性を見きわめながらこれからも共に歩いていって欲しいと思います。

横川 最後に、将来の農業農村を守っていくために必要なことは何だとお考えですか。

草光 特に子供たちの地域への関わり方が大切だと思います。例えば、幼少期にどれだけ自然に接したかが、地域への関心の度合いにも大きく影響することが分かってきています。ですから、子供達がいかに地域のことを知り、関心をもち、興味をもつかが、将来の農業農村を守ることになるのではないのでしょうか。

小林 私が遠足で貝塚に連れて行ってもらったことや、草光さんが高知で自然に触れ合ったことなど、どこにそのきっかけがあるかわからないものですね。子どもの感性は、それぞれなので、将来の選択肢を広げるという意味でも幼少期に自然に接したり、地域に関わることはとてもよいことだと思います。

横川 専門分野の違うお二人ですが、「人の思い」を大切にしたいという共通の考えが、接点になっているようにお見受けしました。今回お聞きしたことを、今後の農業農村の在り方を考える上で、また、事業を進める上でも参考にさせていただきたいと思います。本日は貴重なお話、有難うございました。

平成27年度 石川県農業農村整備事業推進協議会県外先進地研修

12月2日～4日、石川県農業農村整備事業推進協議会が徳島県、兵庫県へ先進地研修を行った。



吉野川北岸土地改良区

参加者は、県、市町、土地改良区、本会の役職員17名で徳島県阿波市「吉野川北岸土地改良区」、徳島県上勝町「葉っぱビジネス」と兵庫県加西市玉野町逆池「水上大規模太陽光発電施設」を視察した。

吉野川北岸土地改良区は、受益面積6,300ha、主に用水管理を行っており、その水源は香川県の「池田ダム」から北岸用水（パイプライン）により供給されている。土地改良区からは、パイプラインの埋砂や受益地内の耕作放棄地への賦課などの課題及び太陽光発電や複式簿記の導入により、土地改良区運営の安定を図っている現状について説明があった。

徳島県上勝町では、葉っぱや花を料理のつま物として商品化する「葉っぱビジネス」や小水力発

電などを視察した。中でも、葉っぱビジネスは、過去にみかん畑が冷害に見舞われたことをきっかけに、代替事業として試行錯誤の末に確立されたもので、今では年収1,000万円以上の生産者もいるなど、地域の基幹産業となっている。また、多くの高齢者が携わっていることから、地域の高齢化対策としても注目を集めている。

兵庫県加西市玉野町では、農業用ため池「逆池」に設置した世界最大水上メガソーラー施設を視察した。工事費は20億円、電気料金収入約1億円で一部を賃借料として市を通してため池管理者に支払われ、農業施設の管理に利用されている。水上に設置すると陸上に比べ工期が短縮されるほか、パネルの温度が上がりにくいと、発電能力が低下しないことが最大のメリットであるとの説明があった。



太陽光発電

マナー研修会を開催

9月29日、本会では職員と会員土地改良区職員34名の参加のもと、マナー研修会を開催した。

まず、お茶の作法の研修として、茶道裏千家の松井宗博先生より、茶道の心得や基本的な所作等について実践を交えて指導を受けた。

午後は、NPO法人 消費者支援ネットワークいしかわの青海万里子事務局長より、「消費者被

害を防ぐ地域のかなめに」として、昨今の悪質な詐欺やサービスなどに対するの心構え、対処法などについて講演をいただいた。



技術力向上事業研修会開催



12月8日、本会は石川農林会館及びかほく市、津幡町の現地において、技術力向上事業研修会を開催した。

この研修会は、農業農村整備事業に関する基礎的、専門的知識の習得を図ることによる技術力向

上を目的とするもので、市町の職員、土地改良区の役職員27名が出席した。

最初に、基幹的農業水利施設の保全にかかる取り組みと維持管理計画書の変更手続きについての講義があり、その後、現地研修に移った。まず、本年度土地改良施設維持管理適正化事業でオーバーホールを行う「指江第1用水機場」において、用水機場の日常点検の実習を行った。次に、「新舟橋排水機場」へ移動し、排水機場の日常点検について、管理主体の河北潟沿岸土地改良区 長原事務局長より説明を受けた。

各地で完工式が行われる

○県営ほ場整備事業（面的集積型）「東馬場地区」

9月12日、県営ほ場整備事業「東馬場地区」の完工記念式典が鹿島郡中能登町東馬場地区で行われ、県、町、土地改良区、地元関係者など120名が出席した。

本地区は、昭和30年代の積寒事業により7a区画で一次整理されたが、近年の農業情勢の急激な変動に伴い、1haの大区画に整備された。これにより、担い手農家を中心とした大規模

〔事業概要〕

○受益面積 56.5ha ○工期 平成19年度～平成27年度 ○事業費 9億7,600万円

模な面的集積の促進、大型機械の効率的な運用を柱にした営農体系の確立など、生産コストの低減と農業経営の近代化が図られた。



○県営ほ場整備事業（面的集積型）「酒見地区」

10月30日、県営ほ場整備事業「酒見地区」の完工記念式典が羽咋郡志賀町酒見地区で行われ、県、町、土地改良区、地元関係者など61名が出席した。

本地区は明治20年代に8a区画に整備されているが、用水の漏水、排水不良により営農に支障をきたしていた。このことから、1haの大区画ほ場整備を行い、農地の集団化、集約化等を総合的に実施し、担い手を中心とした大規模

〔事業概要〕

○受益面積 72.0ha ○工期 平成22年度～平成27年度 ○事業費 14億9,900万円

集積の促進を図った。また、大型機械による営農体系の確立を図り、生産コストの低減と農業経営の効率化を目指す。



北陸農政局が石川支局を開設

北陸農政局は10月1日、農林水産省の組織再編に伴い金沢市の金沢野町庁舎に石川支局を開設した。同日、広坂合同庁舎において、北陸農政局、県、市、JA、本会ほか関係者約60名が出席し開所を祝った。

支局には、局長直属の地方参事官を含む16名が配置され、県内の農政全般に関する総合窓口としての役割を担うこととなる。

具体的な業務内容は、県内の現場を回って生産者らに農政に関する情報を提供するほか、質問や相談に応じるといったもので、これまで農政局内の各部署が担当していた業務が支局に一本化される。

この開設に伴い、七尾支所で行ってきた経営所得安定対策の関連業務や統計調査は野

町庁舎へ移管し、七尾支所は廃止となる。

開所式に続いて、農政推進懇談会が開かれ、出席した各団体の代表者から現在抱えている課題について、今後、支援や対策を強化する旨の要望があった。



挨拶する小林厚司北陸農政局長

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015

全国水土里ネット及び都道府県水土里ネットが主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015の受賞作品が決定され、12月6日、東京都墨田区「すみだりバーサイドホールギャラリー」において受賞式が行われた。今年度は、7,163点の応募があり、そのうち23点の作品が入賞した。

○農林水産大臣賞



「いなかりの日の思い出」
鹿児島県 海邊 愛依（4年生）

○全国水土里ネット会長賞



「あらしの里」
和歌山県 平岩 舞（6年生）

“21創造運動”いしかわだより

長坂用水見学会（水土里の語り部）

●●● 水土里ネット長坂用水 ●●●

9月から10月にかけて長坂用水の見学会が行われ、金沢市内の5小学校から延べ465名の児童が参加した。

この取組みは、平成18年度から歴史的疏水や先人たちの偉業を子供たちへ伝えることで農業の大切さや地域資源への理解、郷土を愛することを目的に、長坂用水土地改良区が主催し、県央農林総合事務所と本会が協力して毎年実施されているもの。

子どもたちは、用水沿いを散策した後、隧道内を見学。その後、当時の建設工事に使用された「跳ねもっこ」などの道具について説明を受けた。



「跳ねもっこ」の実演

手取川七ヶ用水清掃ボランティア

～七ヶ用水水族館～

●●● 水土里ネット七ヶ用水 ●●●

9月23日、水土里ネット七ヶ用水（手取川七ヶ用水土地改良区）は、野々市市中林地内の石川県立大学農場実習センターを主会場に、「七ヶ用水水族館」を実施した。参加したのは、小学生と保護者30名で、郷用水2-1号支線の清掃ボランティアと水路内の生き物調査を行った。

始めに、清掃活動で川底のゴミ拾いを行った後、水路内でウグイ、ドジョウ、ヨシノボリ、ドンコ、モクズガニ等の生き物を捕まえた。参加した児童たちは水路に様々な生き物が生息していることを知り、用水管理の大切さを改めて認識した。



施設見学会・体験学習会

●●● 水土里ネットかほくがた・河北潟水土里ネットかんたく ●●●



潟端南第1排水機場

10月29日、水土里ネットかほくがた（河北潟沿岸土地改良区）と河北潟水土里ネットかんたく（河北潟干拓土地改良区）は合同で、津幡町立条南小学校の児童82名の参加のもと、河北潟干拓地及び周辺の農業用施設の見学と体験学習会を開催した。

子どもたちは生き物調査隊、植物調査隊、干拓地農業体験隊の3班に分かれ、まず、県と土地改良区が管理する排水機場等を訪れ、普段見ることのできない大型ポンプの説明を受け、大量の水を排水する様子などを見学した。また、排水機場が住宅地等の洪水防止に役立っていることについても説明を受けた。

その後、さかな釣り、もの作り教室、生き物教室・植物教室、バター作りなどを体験し、河北潟の自然に親しみながら、現地で様々な事を学んだ。

宮竹用水探検

●●● 水土里ネットみやたけ ●●●

水土里ネットみやたけ（宮竹用水土地改良区）は、9月29日に能美市佐野町地内の得橋用水で湯野小学校4年生49名、また10月22日、能美市岩本町地内の上郷用水で宮竹小学校の4年生17名による用水探検を行った。

探検では、停水して水位が下がった川底を歩きながら、水質調査、ゴミ拾いや生息するウグイやヨシノボリなどを捕まえた。活動のあと、県内水面水産センター所長から生き物の説明があり、参加した児童たちは用水や生態系への理解を深めた。



水土里ネットみやたけのホームページがリニューアル

水土里ネットみやたけのホームページが10月末にリニューアルしました。

★アクセスはこちらから→<http://www.miya-you.or.jp/>



第39回全国土地改良大会石川大会

大会式典

日時 平成28年10月25日(火) 13:00 ~ 16:00
12:30からオープニングセレモニー
会場 いしかわ総合スポーツセンター「メインアリーナ」

交歓会

日時 平成28年10月25日(火) 17:00 ~ 19:00
会場 ホテル日航金沢 4階「鶴の間」

事業視察

日時 平成28年10月26日(水)～

※時間は予定です。

- 9月
- 2日 七尾鹿島土地改良推進協議会第2回幹事会 (七尾市役所)
 - 3日 表彰審議会(青森大会土地改良事業功績者)(砂防会館別館)
 - 9日 全国ため池等整備事業推進協議会総会 (砂防会館)
 - 同日 都道府県水土里ネット事務責任者研修会 (全国都市会館)
 - 12日 県営ほ場整備事業「東馬場地区」完工式(東馬場公民館)
 - 14日 平成27年度管内農業農村整備担当課長等会議(第2回) (北陸農政局)
 - 18日 石川県農業会議常任会議員会議 (県庁)
 - 29日 職員研修会(マナー研修) (金沢都ホテル)

- 10月
- 1日 北陸農政局石川支局開所式 (広坂合同庁舎)
 - 2日 土地改良施設の整備補修事例検討会 (農林会館)
 - 3・4日 第37回石川の農林漁業まつり(産業展示館4号館)
 - 7日 土地改良区等ヒアリング調査 (北陸農政局)
 - 8日 H28農業農村整備関係概算要求説明会・意見交換会(ホテル金沢)
 - 9日 手取川七ヶ用水土地改良区臨時総代会(白山市民交流センター)
 - 15日 第38回全国土地改良大会青森大会 (青森市)
 - 同日 全国会長等会議 (青森市)
 - 16日 第2回石川県担い手育成・農地集積推進会議 (県庁)
 - 20・21日 北陸四県土連協議会職員研修会(富山県朝日町他)
 - 23日 石川県農業会議常任会議員会議 (県庁)
 - 28日 地域環境資源センター第2回理事会(地域環境資源センター)
 - 30日 県営ほ場整備事業「酒見地区」完工式(志賀町酒見地内)

- 1日 河北潟ふれあいフェスタ (営農公社)
- 4日 都道府県土連会長・事務責任者合同会議(TKRガーデンシティ永田町)
- 8日 県立大学創立10周年記念式典・記念講演(金沢ニューグランドホテル)
- 10日 疏水ネットワーク総会 (倉敷市)
- 10・11日 疏水フォーラムin高梁川流域2015 (倉敷市)
- 12日 2015ため池フォーラムinいしかわ (七尾市)
- 12・13日 換地技術者育成確保連絡会議 (勤労者プラザ)
- 13日 石川県農業農村整備事業推進協議会農政局要望(北陸農政局)
- 同日 加賀三湖発電所安全祈願祭 (小松市千木野町)
- 16日 ふるさと対話集会 (農林会館)
- 17日 全土連巡回(負担金事業) (土地改良会館)
- 18日 第9回県内土地改良区事務局長連絡会議(金沢市湯涌)
- 18・19日 石川県農業農村整備事業推進協議会中央要望(東京)
- 20日 北陸四県土連協議会選考委員会 (農林会館)
- 同日 北陸四県土連協議会要請活動 (北陸農政局)
- 同日 石川県農業会議常任会議員会議 (県庁)
- 24日 新たないしかわの食と農業・農村ビジョン策定検討会議(県庁)
- 24～27日 会計検査院第4局農林水産検査2課実地検査
- 27日 農業農村整備の集い (シェーンバッハ・サボー)
- 30日 北陸四県土連協議会中央要請 (東京)

- 12月
- 2～4日 石川県農業農村整備事業推進協議会県外視察(徳島県、兵庫県)
 - 3日 石川県基幹水利施設管理協議会施策提案 (東京)
 - 8日 技術力向上事業研修会 (農林会館ほか)
 - 10日 第2回職員研修会(マナー研修) (持明院)
 - 22日 石川県農業農村整備事業推進協議会石川県要望(県庁)
 - 24日 第2回理事会・監事会 (ホテル日航金沢)

人事異動

○農林水産省 農村振興局

平成27年10月1日付

農村政策部	地域振興課	課長	圓山満久
整備部	地域整備課	課長	田中龍太
同	同	農村整備情報分析官	古澤清崇
農村政策部	地域振興課	日本型直接支払室長	西経子
同	同	中山間地域室長	古賀徹
整備部	農地資源課	多面的機能支払推進室長	柵木環
農村政策部	農村環境課	鳥獣対策室長	秋葉一彦

○北陸農政局

平成27年10月1日付

局長		小林厚司
農村振興部	部長	渡辺巧
地方参事官		三木秀一
地方参事官		廣田道夫
地方参事官		松崎俊昭
地方参事官		垂井良充
地方参事官(石川支局長)		三浦美知雄

農業基盤整備資金の金利改定について

下記のとおり1月に改定されましたのでお知らせします。

◎株式会社日本政策金融公庫

(単位：%)

区分	現行	改定
県営	0.85	0.75
団体営	0.70	0.60
非補助	0.70	0.60

※災害については償還期間により利率が異なりますので、公庫にお問い合わせ下さい。

表紙の説明

白山は、最高峰の御前峰(2,702m)を中心に、大汝峰、剣ヶ峰、別山を主峰とする峰々の総称。約1億年前には湖底にあったが、何度も噴火を繰り返すなどして、今日の姿になった。現在は、石川、福井、岐阜、富山の4県にまたがり、面積47,700haに及ぶ白山国立公園として多くの登山者に親しまれている。また、ユネスコの生物圏保存地域にも指定されている。

柴山瀧、今江瀧、木場瀧は加賀三湖と呼ばれ、昭和27年(1952)から同44年(1969)にかけて今江瀧と共に瀧の約6割が干拓された。片山津温泉に隣接しており、瀧の中央には浮御堂と日本有数のスケールの噴水が設置されている。夜にはライトアップなどが楽しめる。

編集兼発行：金沢市古府1丁目197番地
石川県土地改良事業団体連合会
電話 076-249-7181
印刷所：(株)谷印刷